

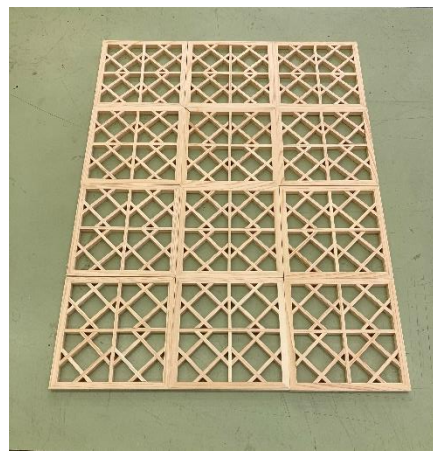
☆建築科1年生の授業☆

1年生工業技術基礎(建具～組子をつくる)授業2回目

1年生は前回に引き続き、建具マイスターであり、現代の名工である友國先生と杉村先生から指導を受けました。先生方より「鑿(のみ)」について直接教わり、使いました。先生は、簡単に「鑿(のみ)」を滑らせているように見えたが、生徒たちは、「鑿の持ち方、手の使い方」などを注意されていました。何とか枘つなぎの組子が完成し、班員全員のものを集めてみるとまとまりのある組子になっていました。



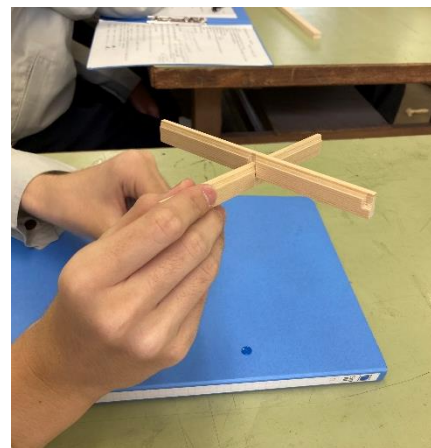
↑ 昨年の作品を活用した実習室のドア



↑ 今回の班員の完成作品



あと少しで入りそうで、入らない。調整に時間がかかりました。



組子の完成後は、先生の持ってこられた障子のつくり方を、実演も交えて見せていただきました。細かいところまで気を配る建具のデザインとそれを実現するプロの技と初めて見る道具に驚きました。そして、日本建築の美しさの秘密を知ることのできた授業でした。

☆建築科の授業☆

1年 工業技術基礎 「造形」

吉村順三先生設計の「軽井沢の山荘」について、学んだ後、スチレンボードを使用した建築模型をつくりました。



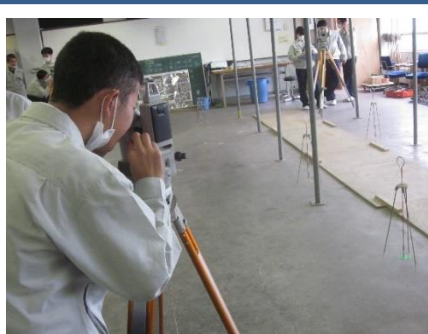
↑ 実際の軽井沢の山荘



1階から屋根の上まで、利用できる設計になっていることが、模型をつくってわかりました。

1年 工業技術基礎 「測量」

トランシットという測量器械を使用して、角度を測りました。高価な器械ときいて、取り扱いもコワゴワ行ってしまいました。角度を測る前の、機器の設置と調整に案外時間がかかりました。



1年 工業技術基礎 「木工」

腰掛け蟻継ぎをつくりました。大工の棟梁から、墨付けの方法、加工するときの道具の使い方を学びました。墨線を半分残す加工が難しく、先輩のつくった見本のようにはなかなかできませんでした。



棟梁に、上手くいかないとこをきいて行いました。



←腰掛け蟻継ぎ



☆建築科の授業☆

2年 実習 ツーバイフォー材を使用したイスづくり

自分でデザインしたイスをつくっています。完成に少し時間がかかっています。



↑先輩の作品



3年 実習 「鉄筋コンクリート構造 型枠」

型枠の技能マイスターの先生から、鉄筋コンクリートの柱・はり・壁の形をつくるための型枠をつくり、型枠の建て込みとコンクリートを流し込んだ時に型枠が動かないために固定する方法を学びます。

今回の実習では、曲面型枠を先生が持ってきてくださいました。学校にある型枠と材料は、同じです。曲面なので、合板と栈木が加工されて曲がっています。



↑上手く入らない型枠が、先生が登場するとキッチリ納まります。「この違いはなんだろう?」と思ってしまう。



曲面型枠の合板

栈木(さんぎ)

曲面型枠の材料



↑曲面型枠の材料を仮置き



栈木(さんぎ)

セパレータ

セパレータ(型枠を固定する金物)の位置決め。型枠の内側と外側で曲率が違うのがわかります。